

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

ホームページ <http://shakatsusushin.cool.coocan.jp/>

発行所 社会通信社

発行人 滝野 忠

e-mail: shakatsusushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポル幡ヶ谷九〇四 電話(03)337714649  
振替 0010019158431 労金 中央労金本店 No.1154163

FA X (03)329915367

購読料 月額 (郵送) 350円・メール 175円

6カ月前納制

## 〈もくじ〉

### ■巻頭言■

マルクスの『資本論』を読む

滝野 忠……………2

『エコノミスト』(四年八月一九日)の経済学から

戦争だ！ 戦争だ！……………3

―世界情勢の特徴について(一)―

搾取を基本にした学習……………5

―労働組合に欠けるもの―

空港管理収支は赤字続き、土地も売れず借金先延ばし……………8

―開港八年を問う―

復興アト助っ人に 昨年に続き大船渡へ……………9

菅原 須摩子……………9

苦しみを怒りとして闘いつづけ……………11

―CO患者の生き証人 清水正重さん死去―

読者からのおたより……………11

# 旬刊 社会通信

NO. 1177

二〇一四年一〇月一日号

二〇一四年一〇月一日発行  
(毎月一日・十五日二回発行)

## マルクスの『資本論』を読む

『エコノミスト』（一四年八月一九日）の経済学から

『エコノミスト』（一四年八月一九日）は「資本主義をトコトン考えよう」と題し、第一部が問題か、第二部歴史に学ぶの大特集をくんであります。誌の問題意識は『資本主義』というシステムは限界に達したのか。先進国を中心に長期停滞論が叫ばれ、拡大する貧富の差が、その限界論を裏付けようとしている。どこに問題があるのか、徹底検証する。」

テーマはおどろおどろしいのですが、その内容たるや、「お粗末」の一言でお始末という代物です。特集には多くの学者、金融機関に奉仕するエコノミストが登場しております。少しばかりおもしろいのは、彼らの生業（なりわい）はその時その時の問題を薄く浅く考え、資本主義の仕組みが生み出す諸矛盾に労働者・国民の目が向かないようにすることなのですが、彼らの意識とは別に資本主義について考えてみなくてはの意識を自然発生的につくり出しているのではと考えられなくもありません。

現代社会のもっとも大きな問題の一つが「格差拡大と貧困（分配のゆがみ）」といわれます。『エコノミスト』の将来もそこに焦点を当てています。たとえば第一部ではピケティというフランスの経済学者の著書『21世紀の資本主義』をとりあげています。この本の礼賛者は「この本がセンセーションをまきおこしているのは『貧富の格差』そのものに焦点をあてた本だから」と、その「すごさ」をこう語ってみせてくれます。

「格差が拡大しているという現象を、過去100年以上の統計データを使って、これが一過性の現象ではなく長期にわたるトレンドで『富と所得の格差それ自体が資本主義市場経済に内在する』ことを論証してみせたことにある。これはこれまでの経済学の常識を覆す衝撃的な主張である。」

さらに―「この本のメッセージはシンプルだ。要約すれば。

①先進国では、長期的・趨勢的に労働分配率が低下し、資本への分配率が上昇している。②資本の分配率上昇の恩恵をより大きく享受しているのは、中間層ではなく富裕層である。」と。

筆者の肩書きは「経済金融アナリスト」とあります。金融資本お抱えの人物に違いありません。この人物は経済学の古典をまじめに学んだことがないのでしよう。そして資本主義に内在する矛盾についても、ですから、「これまでの経済学の常識を覆す衝撃的な主張」と大まじめに己の勉強の足りなさを白状して恥じないのです。その他の諸論文も似たりよつたりの愚作です。

二人の売れっ子評論家（寺島実郎・日本総研理事長、水野和夫・日大教授Ⅱ元三菱UFJモルガン・スタンレー証券）の対談についても同じです。寺島氏は資本主義の現状を「金融メカニズムが変わり、工学系の卒業生が金融を支えていることから、裾野の産業と金融が急激に乖離している。このようなことで資本主義が社会主義に勝つ

たと言えるのかと疑問がよぎる」、水野氏は「先進国の資本主義は役割を終えたと見ている、資本主義は『中心』と『周辺』で構成され、アフリカ市場などの『周辺』を拡げることににより、『中心』である先進国の利潤率を高め、資本の自己増殖を推進していくシステム」と。しかし、しかしです。寺島は「資本主義について『もはや進歩なし』のような感覚で将来を考えるのは、いかがなものか」と、後輩の水野氏をいさめることで対談を終えています。

社会主義が直接の脅威から消えた現在、体制派（資本主義の擁護者）の連中は資本主義への不満を分散させ、「マルクス主義者」を自軍に手なずけるため、好き勝手におしやべりしているというのが現状です。

彼らが不十分に論じている資本主義の本質については、『資本論』とくに、格差、分配については同書第一巻二三章「資本主義的蓄積の一般的法則」、さらには第二四章第七節「資本主義的蓄積の歴史的傾向」に明らかです。（滝野 忠）

## 戦争だ！ 戦争だ！

—世界情勢の特徴について（一）—

### 日・独が相次いで

現代世界は第二次世界大戦後七〇年を経、再び戦争の時代に突入しているかのようである。病み衰えたアメリカは、第二次大戦前のファシズム国家にたよらざるを得なくなった。ソ連邦崩壊に次ぐ世界史の転換である。

安倍は解釈改憲をさらに進め、憲法九条・前文が定める「平和国家」を破棄し、米・韓との軍事同盟を優先する「集団的自衛行使」容認に舵を切った。

メルケル（独首相）は「ウクライナ領土の一体性と国民の幸福はドイツ外交そのもの」、「（イラクにおける）クルド人部隊は私たちの利益を守ってくれている。（イラク、シリアで勢力を拡大する）イスラム国はドイツでテロを起こすおそれがある」と、これまでの国内法規を破り、クルドへの武器供与（対戦車ミサイル、ロケット、装甲車、機関銃等）に踏み込んだ。その背景にある考え方は「ドイツは何十年にもわたって他国から安全を与えられてきたが、今や自ら努力する必要がある。」これと安倍の考え方は変わらない。「これからは我々がアメリカに奉仕する番」と。

### 戦争の時代へ

現在内戦、戦争状態にある国家はシリア、リビア、イラク、アフガニスタン、パレスチナそれにアフリカの多くの国ぐに、そしてウクライナである。これら国ぐにを戦争状況に追い込んだのはアメリカの侵略戦争と介入だ。

シリアはアメリカの干渉で権力者のアサドと反アサドのイスラム勢力、それに「イスラム過激派」と世界のメディアが喧伝するイスラム国が戦いあう。リビアは権力者カダフィをテロリストとするアメリカがE.U諸国と有志連合を結成し殺した。反カダフィ勢力にバラまかれた武器、リビア軍の武器が地方の部族勢力に流れ、内戦状態と

なった。

イラク、アフガニスタンの構図もリビアと同じだ。アメリカは「テロ勢力」ぼく滅、「サダム・フセインは化学兵器を所有、使用した」とイラクに侵攻（二〇〇三年三月）した。直接の戦争結果ははじめからわかっていた。だが〇六年以降、権力闘争、宗派闘争、クルドとの民族闘争が錯綜し、イラクは内戦状態となった。その間隙（かんげき）をぬって勢力を伸長させたのが「イスラム国」といわれる。オバマがイラク戦争「終結」を宣言し、駐留米軍が撤退完了したのは一年一二月だった。だが、イラクは内戦状態にあったのだ。ここでも混乱の元凶はアメリカの介入だ。

イスラム国の「伸長」を前に、オバマは「イスラム国を打倒するための行動をためらわない、破壊するための連合を構築する」と、イスラム国が支配するイラク地域を空爆、そればかりか地上軍派遣をさぐるための要員を続々派遣、その数千とも伝えられる。イスラム国はイラク北部、シリア東部、トルコ北部に勢力を持つ。空爆はシリアに拡大する。

アフガニスタンは一九世紀以降、侵略軍―一八〇〇年代の三回にわたるイギリス、一九七九のソ連、一九九八年アメリカ―との抗争の歴史をもつ。侵略国がアフガニスタンを「安定的」に統治した歴史はない。侵略軍はいつも敗北した。今も同じだ。アメリカは今年（二〇一四年末）約一万人の軍事顧問団を残し、一六年に完全撤退を計画する。その後にくるものは内戦である。

イスラエルは英・米を中心とする帝国主義国がアラブ分断を目的につくった国だ。米英を中心とする帝国主義勢力は第二次世界大戦後の民族独立の闘いが高まるなか、アラブのパレスチナに植民国家をつくった。それがイスラエルだ。植民政策は今も続く。ヨルダン川西岸のアラブ地域への植民だ。パレスチナ人民は「植民政策をやめろ」、イスラエルは「植民政策はやめない」という。それにパレスチナ自治政府のガザ地区・ハマスは大きな声で反対し、イスラエルに抵抗する。ハマス壊滅が今のイスラエル・パレスチナ戦争である。

### 新たな米・口対立

戦争は西アフリカ、中東からヨーロッパ大陸に拡大した。ロシアのウクライナ領・クリミア占領、そしてウクライナ東部での戦争だ。ウクライナは独立いらいEUとの関係をめぐり権力闘争をくり返してきた。

ウクライナはEU諸国・NATOとロシアの緩衝国としてある。EUはロシアへの包囲を強めたい、と旧ソ連邦の国ぐにへの懐柔、東方政策（EUとの自由貿易協定）を進めた。ウクライナの西にはEUともっとも緊密なポーランドがある。EUの東方政策を阻止したい、かつてのソ連邦時代の威信を取りもどしたいが、プーチンの思惑だ。クリミア半島は黒海から地中海への海洋進出の要衝だ。ウクライナがEUと同盟すれば、クリミアのセバストポリを基地とするロシアの黒海艦隊はおもちゃの船となる。だから、プーチンはクリミア半島を占領した。

ウクライナ本土についてはEU、NATOの思うがままではなく、ロシアの影響

力を残したいが本当のところだ。ウクライナ「内戦」は現代的帝国主義―「冷戦」時代からの―の他国介入策を赤裸々に語る。

ウクライナ東部のドネツ人民共和国首相は「現役ふくめ三〇四千人のロシア人が参加。休暇を海辺で過ごすのではなく、自分の兄弟とともに自由のために闘っている多くの兵士がいる」、ウクライナ首相は「現在も数千人の外国人の部隊と外国人の戦軍数百輛がわが国に入っている」と。

ロシアは旧ソ連邦時代の権益を取りもどしたい、ウクライナはその権益をEU、NATOにたより守りたいと考える。このぶつかり合いがロシアとウクライナ・EUの根本だ。

### 世界は不均等に発展する

なぜ戦争なのか。世界史は「覇権」国家の影響力が低下するか、始めた時、大きく変化することを示す。一九世紀から今日まで「覇権」国家はイギリスからアメリカ・ドイツへ、さらには遅れて発展したアメリカ、ドイツ、日本と変わった。二〇世紀の二つの世界大戦は世界の分割と再分割のたかいたかった。二つの大戦はアメリカを世界の「覇権」国家とした。他方には社会主義の盟主ソ連が台頭した。

社会主義ソ連、資本主義アメリカは世界への影響力を高め国連、国連安保理に「拒否権」を設けた。沈みゆく資本主義、昇りゆく社会主義は世界の秩序を確定するため闘った。世界市場は二つに分裂した。社会主義と資本主義の対立・競争と抗争、それが「冷戦」であった。「冷戦」体制は一九九二年を前後して社会主義世界体制の崩壊で幕を閉じた。

資本主義国家間の激しい競争が始まる。中国は「改革開放」、資本主義の原始的蓄積に突き走る。世界経済、政治に大きな変化が起きた。封建的遺制を多く残していた中国はたつた三十年で世界第二位の生産力をもつ国となった。他方、アメリカの力の前にみたとように衰えた。世界市場をめぐる新たな対立、競争が巻き起こる。アメリカはこれまでの権益を守りたい、ロシアは失った権益を取り戻したい、中国は一三億六〇〇〇万人の国民の生存には権益拡大が必要というようにである。これは「冷戦」でなく帝国主義の時代の再来に他ならない。

## 搾取を基本にした学習

―労働組合に欠けるもの―

### 政治そして労働組合

組合大会はほぼ終わった。労働組合は影響力をうすくしたとはいえ、日本最大の組織力、約一千万人を組織する。悲しいことにメディアは（新聞、TV等）はいっさい伝えない。

なぜか。労組は資本の搾取強化に抗（あらが）う組織として自然発生的に生まれ成長した。一九世紀中葉から二〇世紀、労組はマルクス・エンゲルスの世界観―搾取か

らの労働者の解放―と結びつき、社会主義政党との協力で世界・社会を変革する組織となった。レーニンが「労働組合は共産主義の学校」といったようにである。根本は搾取とその廃絶であった。

労組のこの正しい伝統を二〇世紀後半、継承・発展させたのが日本の総評だった。総評の方針、大会論議は日本の将来社会のあり方の予行演習でもあった。だから、メディアは総評の一挙手一投足に注目、そして大きく伝えた。総評解体そして連合結成は、これから経済・社会・政治の大きな変動を予測させた。一九八九年の株式バブル崩壊、金融・証券恐慌の時である。

日本の政治・経済が激動期に入る。その入り口で当時の世界の労働組合でもっとも戦闘的かつ階級的だった総評が自滅した。憲法改悪、とりわけ九条改悪を夢見てきた自民党を中心とする権力者、総保守は、「これで社会党解体も時間の問題」とほくそ笑んだ。中曽根第二臨調の人脈・手法を本手に、国策研究会の民間政治臨調、二十一世紀臨調は社会党つぶし、大政翼賛政治となる「保守二党制」づくりにはた走る。

それに巻き込まれ協力したのが社会党委員長土井たか子さん、そして村山富市さんだった。土井さんは一度は葬り去られた小選挙区制をよみがえらせ、村山さんは自衛権合憲に舵を切った。土井さんが衆議院議長、村山さんが総理大臣の権力者の頂点の時だ。現代政治、地獄の道の始まりである。

### 連合は資本のしっぽ

発足時、権力者（自民党総裁・首相）の竹下登が「抱きしめたい」といった連合はどんな性格の労働組合か。

まず、社会主義をなによりも嫌い、その上に政労資協力・協調を重視する。その具体的政策が政策制度実現、それには政府の諸機関に「参加し、提言し改革することが必要」と、労組本来の姿である職場・地域での日常的な資本との闘いを「要求・抵抗は時代おくれ」と切って捨てる。

その様を露骨に示すのが、経済危機のたびごとの政労、あるいは政労資協定だった。一四春闘では「政労資会議」である。三者は四つ―賃金の「適正」分配、格差解消、非正規社員の正規社員化、生産性向上―を課題とした。現実には生産性向上を基礎とした賃金の「適正」配分に過ぎぬ。それは大昔からの生産性三原則―賃金の「適正」配分、労使協議、「完全」雇用―の現実の姿である。連合は、したがって、生産性三原則という資本の賃金論の回りをうろついているだけなのだ。

競争は内外ともに強く激しくなり、景気循環の波も荒っぽくなった。過剰生産が一般的・常態化した。それが低成長、デフレの根本原因である。貨幣は資本なりを専らとする投機の横行、安く買って高く売る商業資本の再来のような会社の売買である。安倍の経済政策はまさに投機経済のすすめそのものだ。

どんな大企業もつねに不安にさらされる。企業は「会社あつての労働組合、雇用だ。生産性向上に死力をつくせ」と労働者・労働組合の肩をたたき続ける。さらに労組幹部が労働者をとるようになった。

生産性向上で労働者の生活は向上し、雇用は守られるか。逆だ。生産性向上に協力すればするほど労働者の地位は不安定になる。それを今示しているのが電機産業だ。電機産業は二〇世紀後半から不況（過剰生産）——にさらされ続けた。生産性向上の掛け声は大きくなった。労働者は「明日」を信じがんばり続ける。しかし現実には、産業再編成、工場統合、生産減少、首切りでしかなかった。その結果、電機連合という巨大組合は二一世紀初頭の八〇万人から五六万人と二十数万減った。このように、生産性向上に協力することは労働者生活の安定はない、組織拡大もない。

### 諸階級と組織

現代社会の構成はどうなっているか。人口は約一・三億人。大きな内訳は労働者六〇〇〇万人、六五歳以上の高齢者二四〇〇万人だ。労働者が国民の圧倒的多数となった。これを「リベラル」を自称する「優しい」人びとは「雇用社会」とのたまわく。これに対し、私は「二大階級への分裂」とする。労働者階級六〇〇〇万に比し、もう一つの「重要」階級が独占資本家（今日では株式会社という姿をとる独占的大企業の経営者層Ⅱいわゆる重役）は多く見積もっても数百万人のごく少数でしかない。農民、小商工業者は少なくなり独自の政党をつくりえなくなった。インテリゲンツィア層は資本の茶坊主と化し、かつてのような文化的・思想的影響力を失った。支配階級の回りをうるつくだけである。二五%を占める高齢者は独自の政党をつくりえない。

これら階級・階層の組織的状况はどうか。

二大階級にあたっては労働組合（連合六七〇万、全労連一一〇万、全労協二〇万、他二〇〇万）の一〇〇〇万人、独占資本の総司令部・日本経団連約一三〇〇社（会社法人数六〇〇万社）にすぎぬ。二大階級の政治組織である政党員数は自民九〇万、民主二〇万、共産三〇万、社民五万の党員とある。

自民支持基盤は日本経団連、日本商工会議所、農協（三〇〇万）、他医療、建設・不動産の業種団体、地方商工会のボス達だ。

民主支持基盤の主たるものは連合だ。その様は参院比例区に明らかである。この党に綱領はない。世界観が定まらないからである。当面は連合のフンとしてあり、自民党内の抗争激化とともに分裂・解党となる。

労働者階級を支持基盤とするのが共産と社民。共産は全労連を中心に女性、商工会青年組織等であり、社民は自治労を中心に一部の労働組合、民主的人士となる。

六〇〇〇万の労働者票（有権者総数一億人）はどの政党に投ぜられているか。

各党の基礎票は自民二〇〇〇万、民主一〇〇〇万、共産五〇〇万、社民二〇〇万、公明六〇〇万とある。共産、社民あわせて七〇〇万、労働者階級の一割強でしかない。これに民主一〇〇〇万の三〇%が連合組合員からとしても三〇〇万の一〇〇〇万票になるかならぬかだ。

### 労働組合 闘いの諸領域

労働組合の闘いの領域は広く、深い。まず組合員の労働条件—賃金・職場環境・定

員―確保が根本となる。いわゆる経済闘争である。

労組が最大の課題として位置付けるのが雇用法制だ。資本の儲けの大元は搾取にもとづく剰余価値獲得だ。政府は資本になりかわりもつとも安全で確実な剰余価値の実現に全力をあげる。労働時間延長、残業を残業とみなさない雇用制度、労働者のジャスト・イン・タイム化、労働強化、時間給を排し業績給という出来高払い化等である。国家・地方公務労働者賃金は法・政治で切り下げられる。これらはいわゆる経済闘争の延長上の政治闘争である。

本来の政治闘争の領域も広い。憲法九条そして前文をめぐる闘いは新たな段階に入った。集団的自衛権行使を可能とする法案との闘いは九月の臨時国会以降本格化する。中国、北朝鮮、ロシア、イスラム主義への「脅威論」もある。その他、原発・エネルギー、震災復興、TPPと数え上げればきりが無い。

### 思想を大事に

これらに真正面から闘い、闘いぬくためには思想的闘争が重要だ。そして思想で「武装」された組織の拡大強化である。

生産性向上にもとづく生産性三原則では労働者生活の向上ははかれぬ。

一四春闘は「官製春闘」との評価である。政府は物価を二%上げたいとする。消費税率は三%上がるから、実質の物価上昇率は五%ちかくなる。連合春闘の上げ幅はせいぜい定昇のみ。「連合だけにはまかせておけぬ。物価上がれど賃金ふえずでは、政策は失敗。連合への批判も高まり、労使協調も怪しくなる」と乗り出したのが実態。

一四春闘の結果はどうであったか。連合は①月例賃金の引き上げで有額回答ひきだした、②賃金水準を引き上げたとは消費拡大をつうじて内需主導の経済の好循環に向けてスタートがきれたと自画自賛する。賃上げは五九二八円（二・〇七%）、前年比一一〇三円（〇・三七）増なのだ。

物価は上がる五月四・四%、六月三・三%、しかし、賃金は上がらない。労働者の六月実収入は六・六%下がり、実質賃金はマイナス三・八%。これが政府の公式統計だ。資本と政府にオンブとダッコでは賃金・労働条件は上がらない。しっかりと賃金論が必要ということだ。そのためにはしっかりと学習が必要である。

## 空港管理収支は赤字続き、土地も売れず借金先延ばし

### ― 開港 八年を問う ―

少し古くなるが、兵庫の仲間たちは一四年二月、「神戸空港開港八年抗議集会」をおこなった。関西圏は伊丹（大阪）、関西（大阪湾上）、神戸（神戸沖）の三つの空港をもつ。神戸空港は需要予測に遠く及ばず、空港管理収支は破たん状況が続く。しかも空港島土地処分は進まず起債償還が重くのしかかる。土建屋のみを潤す公共事業政策の実態である。

今、日本全土をダンプ、重機がうなりを上げる。震災復興、オリンピック、国土強じん化、さらには消費税を可能とするための公共事業大盤振まいである。これらは報告にある神戸空港破たんを再来させること必至である。

（編集部）

二月一六日で神戸空港開港八年を迎えました。しかし、この数年間の旅客数は二四〇万人前後で、需要予測である四〇三万人には遠く及んでいません。また、空港管理収支も、二〇〇九年度から実質赤字の状態が続いています。この数年は積立金である財政調整基金の取り崩しで何とか収支を保ってきましたが、その財政調整基金も二〇一一年度で取り崩してしまいました。

従って、二〇一二年度は前年度に引き続き、他会計である新都市整備事業会計から七億五千万円の資金を繰り入れないと収支が保てない状況に追い込まれ、二〇一三年度も、新都市整備事業会計から七億八千万円の資金を繰り入れないと収支が保てない予算です。

すでに発着枠は上限の一日三〇便に近づいており、小型機中心の機材により着陸料収入は頭打ちの状況です。これ以上の収入増は見込めず、さらに市債償還は今後も続くことから、二〇一四年度予算案でも新都市整備事業会計から八億円の資金繰り入れが提案されています。

さらに、空港島の土地処分は進んでおらず、二〇一四年までに空港島だけで一九八二億円の起債を償還しなければなりません。すでにその償還が始まっていますが、民間向けに造成した土地八二・八ヘクタールのうち売れたのは八・一ヘクタールのみです。更に、ポーアイ二期(ポートアイランド)などを含めた新都市整備事業会計全体で、償還額は二〇一七年までに三六九二億円にもなります。「使える基金や現金預金」をすべて取り崩しても足りず、資金ショートしてしまうこととなります。

そのため空港島造成償還財源の穴埋めとして、二〇一〇年度から二〇一三年度まで、四年間で計八〇〇億円も起債を借り換え、二〇一四年度予算でも二〇〇億円の借り換えが予定されています。このことによりさらに返済が先送りされることになり、結果として次世代に多くの負担を押し付けることになっています。

神戸市は神戸空港の失敗を素直に認め、市民に謝罪すると共に、すべての情報を公開し、需要予測見通しや財政計画を検証・見直すべきです。そして、廃港も含め今後の空港のあり方について市民に問うべきです。

(「新社会党神戸市会議員団ニュース」二〇一四年二月二一日)

## 復興アート助っ人に 昨年に続き大船渡へ

十日間、大立仮設で自炊生活 「希紡の会」は六月二七日から七月六日までの一〇日間、大船渡で原田ミドーさん制作の復興モニュメント「明日へのラブレター」のタイル作業を手伝い、北海道、岩手、宮城、福島、千葉、東京、神奈川、長野から一四人(延べ四七人)が参加しました。参加できなかった方々からの支援金や米、味噌、野菜、ジンギスカン、りんごジュース、焼酎、お菓子などの差し入れも相次ぎ、元氣百倍で士気も上がり、作業もはかどりました。何よりもミドーさん、志田さんの思いが詰まった復興アート制作に携わることができたことは貴重な経験でした。

この行動を通じて会員も拡大できうれしい限りです。秋以降、完成に向け作業に拍車がかかることでしょう。引き続き自主的な助っ人をお願いしたいと思います。

期間中は大立仮設住宅のゲスト用部屋をお借りして、三食とも自炊の合宿生活でした。炊事責任者と当番を決め、毎食栄養豊富でバラエティに富んだ献立が並びました。

夕食は、時には志田さんご夫妻や地元のおっ人伊藤青年も加わり、助っ人として到着する人や帰る人で毎日入れ代わり立ち代わり顔ぶれが変わり、ある時は宴会になったり、楽しくいい交流の場となりました。

**タイル磨きに革命** 私たちは一〇日間ひたすらに、モニメントに貼るモザイクタイルの角磨きをしました。細かく砕いたカラータイルのところがったところを小さな砥石で磨いて平滑にする手作業で、九時から一七時まで休む時間も借しんでやっても完成品はわずか。作業待ちのタイルの山に気が遠くなる日々でした。

夕食時も話題になり、機械を導入したらとのアイデアが浮かび、懇意にしている旭川のオービ建設に相談すると、即OK。研磨機を二台超特急で発送していただき、翌日には到着しました。志田さんが「研磨機が届いた」と言いながら作業場に駆け込んできた時には、ミドーさんはじめ居合わせた人たちから大歓声があがりました。会員の中村儀広さん（仙人）と斎藤義和さん（ハカセ）からのカンパを購入代金に充当したので、ミドーさんが仙人号、ハカセ号と命名しました。

**昆圭さんとも再会** 二年前に初めて被災地を訪れた時にお会いした昆圭さんが、たくさんの差し入れを抱えて、盛岡から三時間かけて車を飛ばして駆けつけて下さいました。一緒にタイル磨きをしながらの話は尽きず、あわただしいトンボ返りでしたが、思いがけない再会で感激もひとしおでした。

**うれしい会員の拡大** 呼びかけに対して、多くの方が日程を調整して各地から参集して下さいました。宮城県の佐藤昭一さんは今回も愛用のサックスを持参し、現場で生演奏しました。旭川市職員の酒井智則さんは復興支援で釜石に赴任していますが、縁があつて、土日の勤務休日に応援に来て、すっかり意気投合。会員になって大船渡を担当していただけるこのことで期待しています。

はるか四国から三野ハル子さんが、またオービ建設の佐藤光子社長もこの機会に入会していただきました。

**交流の中から学ぶ** ミドーさん、志田さんとお付き合いの深い大阪の高校教師・大木重範先生が井藤晃子先生と共に到着されたので、さっそく遠来の友をもてなす如く、北海道のジンギスカンとホッケの開きで歓迎しました。お二方は正義感あふれる人柄で、タイル磨きや食事を共にする中、ボランティアのあるべき姿を教わりました。

反省点は、タイルの山にびっくりして、大立仮設住宅支援員の小澤さんや仮設住宅の皆さんと交流の機会があまり持てなかったことで、次の機会に生かしたいと思っています。それでも宝来館の女将と久しぶりの会話、そして仮設の女性たちと茶の湯を楽しましました。

（菅原 須摩子）

## 苦しみを怒りとして闘いつづけ

—CO患者の生き証人 清水正重さん死去—

清水正重さん（八十九歳）は八月に入っても体調が悪く、家族が病院内に寝泊りをするなか、一六日、家族が労働歌を歌うなかうつすらと、涙をうかべ息を引き取りました。五一年間清水正重さんが生き続けることで果した事、それはCO中毒症の中核的な存在であったこと、まさに生き証人として三池CO闘争の中核でありました。

一九五九年八月「石炭合理化臨時措置法」を強行、この措置法は「三池闘争」を起こし、三池をはじめ全国の炭鉱労働者数千人の生命を奪い数万人傷つく惨事を起こした。正に起るべくして起きた人災でした。

清水正重さんは、被災時三九歳、油絵、音楽、釣り等、多趣味で、剣道四段、更に職場、地域でガリ板造りの機関誌を仲間と共に発行していました。

当日は、採重工として三川坑内で働き被災し、三井天領病院に意識不明の状態で見容され、その後九州大学付属病院に転院しました。

三二名の沖原告団の裁判闘争の中で、故原田正純医師の診断として、「本人は高度な知能障害、性格変化、巢症状が明確であるが、被災前の曲や最近の曲でも教えれば何曲かは、ハーモニカで吹くことができる等、人格のすべてが失われている訳ではなく、検証の際に涙ぐむ様子が見られるように、自分がやらされて出来ないことの認識はあり、その為に苦しみ傷ついている。

診断の為の質問や指示された行動を、出来ると思える為に、的外れな答えや行動をとる姿は痛々しい。なんの楽しみもなく毎日ベットの上でじつと座っている苦しみと傷害を受けた、精神の底知れない苦悩が正當に評価されるべきである」と主張しました。

清水正重さんは五一年間苦悩を背負いながら生き続けてきました。三井資本は裁判でその責任が明確になっているのに謝罪しません。国は「確認書」を実現しようとしていません。「三池COと共闘の会」は清水さんの苦しみを怒りとして、三池CO闘争を闘い抜く決意を述べ弔辞とします。 『三池CO』14・9・1 No.129)

## ◇読者からのおたより◇

夢は大切に思いは大きく、初心者には、なかなか難しそうですね。しかし、始めの一步を踏みださないと、勇気を出して挑戦ですね。夢は大切に思いは大きく！

（東京・M）

指針 いつも運動の指針として参考にさせて頂いています。

（市原市・鳩川 静）

編集部より 勇気です。ぜひ編集についても注文して下さい。編集子泣かせの時代ですから。

（横浜市・Y）

九月からメールで 九月からメールでお願いします。アドレスは××です。

（福島・S）

一年分をお願い 残金は少額ですが、カンパとします。これからもガンバって下さい。

（山梨・A）

農業四年生 退職し農業四年生です。大事な情報源です。ご自愛ください。

（山梨・A）

編集部より 自然との営みはいかがですか。文章にしていただけ嬉し。

収穫へ 家業の農業は「サンつがる」の収穫が終わり、月末には稲刈りとなります。自家用はバイナダー一条刈りで、そして「はざがけ」天日による自然乾燥。その他は業者に委託してコンバインで刈取り。十一月の「サンふじ」の収穫に向け余計な枝を切ったり、葉摘みの準備です。下旬の天気が心配です。

編集部より 今年を経験したことのない大雨、猛烈な暑さ等、管理と作業は大変だったでしょう。ガンバッテ 一年分です。残金は少額ですがカンパとします。これからもガンバッテ下さい。

(宮城・S)

編集部より 現状については多く論じつくされています。本質論に力をつくしたい。大丈夫？ 誌代こんなに減額して大丈夫なの？ みんな心配しています。

(静岡・W)

編集部より ご心配に感謝です。他でも云われるんです。でも当面は大丈夫です。二人ともに国民年金ですが、満額入るようになりましたし、みんなやっつてることです。私たちも3%増税時には新聞購読減らし、家の固定電話を解約したり節約に努めつつ、何とか生きのびています。楽しみ 八月二十七日で六四歳の誕生日を迎えました。囑託労働もあと一年となりました。身体の方は三ヶ月に一度造影剤を注入しての検査を行っています。身体に気づかなくて頑張つて下さい。通信楽しみにしています。

(北九州・I)

編集部より ながんでもお身体大切に。

憲法・平和・教育を守る会 いつか来た道、戦争への道をひたすら歩もうとしている安倍政権は、国の基本となる教育関連制度の改悪をはじめとして、国の体制を変えようとしている事に危惧を感じます。最近の世論調査でも「平和憲法を守れ」や「戦争への道には絶対反対」との声が多くあります。安倍政権は、国会での多数派をよいことに何もかも一気に進めようとしています。

私達は、決して現政権に国の未来を任せているわけではありません。今こそ一人ひとりの市民が声を挙げていかなければならないと思います。昨年一二月の秘密保護法成立前後から、福山においても駅前での集会や、ビラ配布。街頭でのリレートークをしてきました。これからも機会を見て平和への訴えを続けていきますので、一緒に行動をしていきましょう。(福山市議会議員・西本章) あきらめない！ これからが本場の闘い 七月一日、私たちにとって忘れられない日となりました。「集団的自衛権行使容認」が閣議決定された日です。一内閣の愚かな判断により日本が再び戦争に巻き込まれる、将来を担う子どもたちが犠牲を強いられる、日本の針路が大きく変えられようとしています。しかし、このことが即行使につながるわけではありません。そこに至るまでには、「自衛隊法」等々のいくつもの法案が出されます。この危険な流れにストップをかけましょう。

(神戸市議会議員・小林るみ子)

カンパのお願い 一七日に稚内護憲集会有り、2泊3日で久しぶりの北海道。沖縄民衆運動を規定しているもの、そこから学んだものを中心にお話しさせていただきました。翌日は核廃棄物処理に関わる幌延の深地層研究センターも見学。北海道の空は広かった！雲が手に取るように近いのは沖縄と同じ。心苦しいのですが、引き続きカンパのお願い。送金いただいた皆さん、ありがとうございます。県知事選で辺野古新基地に反対する翁長候補の当選を勝ち取ることはもちろんですが、それ以上に大切なのが、辺野古・高江の現地闘争の現場を支えること。それなしに辺野古阻止はないと思っています。すでに各方面で取り組まれている方は別として、私の呼びかけに協力いただけの方は、左記に記載の毛利あて工夫して送金ください。カンパは沖縄市民運動の中心となつて「沖縄平和市民連絡会」(共同代表・新崎盛暉沖縄大学名誉教授他)に届けます。なお、送金いただいた際は、メール mochan-123daa@bzr.com.ne.jp へ、ご一報いただけるとありがたいです。

カンパ送付先 ゆうちよ銀行 口座【記号番号】10160-20445891【名前】モウリ タカオ 編集部より 一五回におよぶ現地闘争報告と写真(メール)感謝です。先月に続く九月二〇日の辺野古現地集會に五五〇〇人が結集と。日々の活動の高まりに「沖縄の怒りの深さ」感じます。

沖縄激励行動 米軍新基地建設の是非を問う沖縄県名護市の市議選は、激戦をしのいで基地建設に反対する市長与党が過半数を維持した。基地建設に反対する公明党一名を含めて一六名(定数二七)が基地建設反対で、議会は稲嶺進市政と車の両輪となる。自民党・保守系は十一月の県知事選を控えて何としても議会勢力の多数確保を狙い、多くの候補者は基地建設の是非を明確にせず地域の利益誘導で一議席延ばしたが、名護市の民意は崩せなかった。

新社会党は基地反対活動へのカンパ取組みを開始し、さらにおさなみ書記長を団長として一〇月二二日から沖縄激励行動を行う。ぜひご協力を。(週刊新社会号外 野田市版1434号)